

第2回和光市勤労福祉センター運営検討委員会 議事録

- 日 時 令和7年3月31日(月) 16時30分～18時00分
- 場 所 和光市勤労福祉センター「アクシス」 3階会議室
- 出席者 1号委員 中川 雅之(日本大学 経済学部 教授)
2号委員 小野寺 洋子(株式会社光英科学研究所 代表取締役社長)
- 欠席者 2号委員 田中 信幸(株式会社原田製作所 代表取締役)
3号委員 田中 和巳
4号委員 三浦 章宏
5号委員 阿部 理恵
- 傍聴者 0人
- 事務局 市民環境部次長兼産業支援課長 大塚 欣也
産業支援課課長補佐 大里 裕美子
産業支援課産業育成支援担当統括主査 白田 祥子
産業支援課産業育成支援担当 相田 由莉
羽沢 宝

議事の経過	
発言者	発言の要旨
産業支援課長	(開会) ○開会あいさつ
2 議事	
(1) アンケート調査結果について	
事務局	<p>※資料2「利用者アンケートで見えた現状と課題」をもとに利用者アンケート回答集計結果について説明。</p> <p>利用者アンケートは、昨年11月9日から年末までの期間、アクシス2階受付カウンター横にアンケート用紙、回収箱を設置し、受付スタッフから利用団体の方にアンケート協力を呼び掛け、より多くの意見収集に努めた。結果として、88件の回答を得ることができた。</p> <p>設問7「アクシスを利用しようと思ったきっかけ」について、「運動不足の解消」という回答がもっとも多く、設問8「一番利用する室場」は、アリーナが最も多く、「2番目に利用する室場」は未回答が多い。</p> <p>これらの結果から、アクシスを体育施設として利用している方が多く、ほとんどの方が、一つの室場のみを利用していることが分かる。</p> <p>設問12、13について、アクシスの備品や設備についての満足度を調査したところ、大変満足している、満足していると回答した方が、不満、大変不満であると回答した方を上回る結果となった。</p> <p>また、不満な点について具体的に上げられた中には、浴室、シャワー、トレ</p>

	<p>ニングジム、サウナなどがなくなったことについて挙げている意見があった。</p> <p>設問16「アクシスについて気付いたことの自由意見」について、主なこととしては、浴室の復活やアスレチックルームでのトレーニングジムの復活を求める意見が利用者の声としても一定程度あったことと、料金を安くして利用率を上げることや施設の知名度を上げることが求める意見もあり、さらに多くの方に広く活用されるべきとする利用者の考えがみられた。</p>
中川委員長	<p>事前に提出された意見書において、利用者アンケートについてコメントされている方から、ご発言いただきたい。本日欠席の阿部委員の意見について、事務局に代読願う。</p>
事務局	<p>阿部委員の意見のうち、利用者アンケートに関する部分を代読する。</p> <p>「回答者の50代以上が全体の62.5%、80%が市内在住、職業は分散という結果をみて、その年齢層が通い易い施設という事が一目瞭然、それ以外の方が行ってみたい施設にしていかなければならないのを実感しました。また、その年齢層の方々は気に入れば継続して何年も通われる傾向にあります。現状利用されている方は継続されると思いますので、市民アンケート、事業所アンケートで回答された内容が少しでも実現されれば、多少なりとも利用する人が増えるのではと思いました。」</p>
中川委員長	<p>他に意見がある方に発言いただきたい。</p>
小野寺委員	<p>阿部委員の意見は、もっともだと思う。</p>
中川委員長	<p>利用者アンケートから読み取れることとしては、体育施設として利用されている方が多く、利用者満足度が高いまでは言えないとしても、大きな不満を抱いているわけではないということか。</p>
事務局	<p>現在、アリーナを使用している利用者が多く、アリーナは室場として機能していると言え、また、室場の貸出について利用者からの不満がないと捉えている。</p> <p>補修が必要な部分もあるが、利用に支障が生じる等で利用者が不満を感じることは少ないのではないかと考える。</p>
中川委員長	<p>利用者アンケートの中で、「もっと色んな人に施設を知ってほしい」、「アスレチックルームなど以前あった設備を復活させてほしい」という意見があった。</p> <p>アスレチックルームについてはお金がかかることなので、すぐには対応できないと思う。また、利用料金を引き下げて、もう少し利用頻度を上げた方がいいのではという意見もあったが、他の公共施設と比べてアクシスの利用料金は高いの</p>

事務局	<p>か。</p> <p>他の施設とそれほど変わらない。過去に、面積や利用状況などに基づいて、市内にある公共施設の料金の見直しを一斉に行ったため、施設によって利用料金の差はないと思われる。</p>
中川委員長	<p>施設の利用料金については和光市全体で決めなければいけないということか。</p>
事務局	<p>平成20年ごろに施設利用料の見直しの検討を全庁的に行った際に、面積などを基準に料金を計算した。坂下公民館にも体育室のような部屋があるが、アクシスのアリーナと坂下公民館の体育室（正式には講堂）の利用料は若干差がある。これは、施設面積などに差があるほか、公民館は社会教育施設であるため、施設用途により多少利用料金の計算が変わっているのではないかと思う。また、公民館は団体登録の区分によって施設利用料の減額規定があり、利用料の100%を支払う団体はあまりない。</p>
中川委員長	<p>利用率を見ると、利用料を調整して利用頻度を上げなければいけないのは会議室などアリーナ以外の室場ではないか。産業支援課として、施設の利用頻度を上げる際にどの室場を対象にするかを重点的に考えていただくと良いと思う。</p> <p>また、民間の施設であれば、利用頻度を上げるために利用料金を下げる対応をすると思うが、そのような手段も考えたほうが良いと思う。</p>
小野寺委員	<p>改めて料金表を拝見した。会議室A・Bと和室A・Bでそれぞれ利用料金が異なるのはなにか理由があるか。</p>
事務局	<p>会議室と和室どちらもA、Bそれぞれ広さが異なり、広さによって利用料金を定めているため、利用料金が異なる。</p> <p>また、会議室と和室の利用率が10%程度に留まっており、てこ入れすればこの部分だと考える。</p> <p>一方で、利用者アンケートからもあるように、ニーズとしては体育施設としての在り方かと思う。今回のアンケートから、アクシスを利用しない方々の理由を分析し、どのような取組をするか検討する必要があると考える。</p>
中川委員長	<p>同じような施設が2つあったとして、アクセスコストも含めたときにどちらが安いかと考えたとしたら、アクセシビリティの悪い施設が利用料金を下げなければいけないと思う。</p>
事務局	<p>やはり和光市駅からだと、アクシスに至るまでに地域センターや公民館があり、</p>

<p>中川委員長</p>	<p>近場で空いていればそちらを利用する傾向は考えられると思う。反対に、アリーナがよく利用されている理由は、そういった施設が空いていなかったり、抽選に外れた方たちが来ていると思われる。そういった意味では、周知の機会を増やせば、市外利用も増える可能性があると思う。</p> <p>続いて市民アンケートの結果について事務局から説明願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>※資料4「市民アンケートで見た現状と課題」をもとに市民アンケート回答集計結果について説明。</p> <p>市民アンケートは、無作為抽出した市民1,000名に、アンケート調査票を郵送し、回答は返送用封筒を使用しての郵送、窓口を持ち込み、電子申請システム（つまりインターネット上）での回答を受け付けた。</p> <p>結果として、265件の回答を得た。回答率は26.5%となる。</p> <p>市民アンケート回答者の属性としては、年齢・居住地ともに大きな偏りなく、様々な方に回答していただいた。職業については会社員の方が半数以上を占めている。</p> <p>アクシスの認知度を測る設問では、回答者の55%以上の方が「アクシスの存在を知らない」と回答し、アクシスを知っていても実際に利用したことがある方は、50人にとどまった。回答者のうち、実際に利用したことがある方は18.8%という結果になる。</p> <p>アクシスを知らなかった方に今後利用したいと思うかを尋ねた設問5について、「利用したいと思わない方」が「利用したいと思う方」の3倍にもなった。</p> <p>「利用したいと思わない理由」としては、「交通の便が悪い」、「施設を利用しなくても支障がない」という回答が目立った。</p> <p>一方で、その他として挙げられた理由には、「施設情報が分からない」、「場所が分からないために利用しない」との回答もあり、施設についての周知が不足していることが課題であることもうかがえる。</p> <p>設問7ではアスレチックルームの活用方法について伺っている。アスレチックルームの利用方法、利用目的共に、半数程度の回答者が「今までと変わらず個人が無料で体育室として利用することが良い」と回答している。</p> <p>一方で、利用方法のその他の意見として、「個人利用の場合も団体利用の場合も有料とする」という意見も7件あった。利用目的としては、トレーニングジムの復活を希望する声が多く、その他の意見としても、運動ができるスペースとする利用目的を挙げた回答が多くあった。</p> <p>また、自由意見として、多種多様なご意見をいただいた。</p> <p>施設の目的については、「学校の部活動に活用してもらうことが良い」とする意見や、「子育て支援や障害者支援などの福祉分野に役立てた方が良い」と考える意見が見受けられた。</p>

	<p>また、施設の存続については、「運営を継続してほしい」とする意見がある一方で、「地理的な条件が合わず今後も利用する見込みはない」というものや、「利用状況が低迷する場合は廃止もやむを得ない」と考える意見もあり、中でも体育施設としては、「総合体育館が設立されてからは勤労福祉センターの存在意義が薄らいだのではないか」という考えも見受けられた。</p> <p>イベントや講座、施設の周知について、「勤労者の多くが参加しやすい土日に講座を企画するなど、より多くの方にイベント等でアクシスを活用いただくために工夫が必要だ」とする意見、「施設の存在自体を市の広報を活用してもっとPRすべきだ」という意見があった。これらは、産業支援課の日々の業務の中で、比較的改善がしやすいものであると考えられる。</p> <p>また、今回のアンケート調査について、「施設についての情報が不足しており回答がしにくい」、「施設を残すことを前提としたアンケートなのではないかと」という指摘があった。アンケートには、簡単な説明用紙を添付したが、回答者にとって欲しい情報を十分に説明することができなかったことについて、今回のアンケートの反省点と認識している。</p>
中川委員長	<p>施設について知らない方が半数以上で、「知らない」と回答した方のうち、4分の3が「利用しない」と回答したということとなる。つまり、4分の1は施設を利用してくれそうだとということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
中川委員長	<p>無作為で抽出しているため、アンケート回答者が和光市民の意見を代表していると考えたら、「半分以上は施設について知らず、そのうちの約4分の1は周知次第で施設を利用してくれるかもしれない」と捉えれば良いか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。無作為抽出であり、和光市の全体像を反映しているという想定で、ある程度の分析ができるのではないかと考えている。</p>
中川委員長	<p>施設の周知はどのように行っているか。</p>
事務局	<p>今のところは市のホームページで主にPRを行っている。それ以外の媒体はなかなか取り組めていない状況である。イベントなどはSNSで周知しているが、イベント自体が毎月実施しているものではないため、施設の認知に結びついていくのは難しいところだと感じている。</p>
中川委員長	<p>施設利用者が口コミのような形で、施設に関する情報を広めてくれると効果があるのではないかと思う。</p>

事務局	<p>「施設を知らなかった方が利用するとしたら」という点で考えると、「使用してみたい設備がある（アスレチックルーム・アリーナ・会議室）」、「開催されている講座に参加してみたい」の回答が約7割という結果から、施設設備や講座について周知を強化する必要があると認識している。</p>
中川委員長	<p>6ページの「利用したいと思わない理由は。」について、微修正で改善できる点はないか。</p>
事務局	<p>てこ入れが考えられるのは「魅力のある講座がない」というところである。「利用しなくても支障がない」と回答した方も多いが、この層はおそらく施設の中身が分からないから「支障がない」と思っているのではないか。端的に言うと、講座の開催は、施設について知っていただくひとつのきっかけになるのではと考えられる。</p>
中川委員長	<p>施設の魅力を向上させるにはお金がかかる。施設としてのメリットを見出して、周知するのが良いのではないかと思う。勤労福祉センターアクシスの魅力のひとつは「空いている」という点ではないか。ネガティブな伝え方にならないよう気を付けつつ、「利用できる可能性が高い」ということを周知した方が良いと思う。</p> <p>周知する際に、何を伝えたいのかを整理しておく方が良いのではないか。</p>
小野寺委員	<p>私自身も、以前施設にお風呂があった時は利用していた。閉館時間が遅いので、20時以降でもここに来ればお風呂に入って帰れるかな、と。その当時は筋トレをしている方も多く、やはり他の方も仕事終わりにいらっしゃっているのだなと思っていた。</p> <p>今は、状況も変わり、仕事終わりにどこかに寄るといよりはすぐに帰る方が多くなっているのかもしれない。「勤労福祉センター」という施設名称から、市民に「自分も利用できる、自分にも関係がある施設だ」と認識してもらうことが難しいような気がする。</p> <p>「勤労者の福祉」ということを施設の軸として運営するのであれば、市民アンケートの内容は、施設の運営を検討するうえでは、あくまでも補足になると感じた。</p> <p>ただ、方向転換をしてとにかく広くたくさんの方に利用していただくということであれば、市民に分かりやすい名称に変更したり、周知方法を工夫したりすることなどが考えられると思う。</p> <p>中川委員長がおっしゃっていたように、周知することがやはり大事だと私も思うが、どの層をターゲットにするかは慎重な議論が必要なのではないかと思う。</p>

中川委員長	<p>「勤労福祉センター」という元々の役割を追求して利用率の向上を目指すのはお金がかかりそうだと思う。</p>
小野寺委員	<p>施設の近辺で働いている方はたくさんいらっしゃると思うが、夜勤をされている方は仕事が終わったらあとは帰るだけなので、どうすれば施設に寄ってくださる方が増えるかなと考えた。この一帯も開発が進むと思うが、今後勤労者が増えるのであれば完全に「勤労者」を対象にしてもいいのではと思う一方で、和光市民が置いてきぼりになってしまうのではないかと懸念する。</p> <p>開館時間については、「勤労福祉」という観点で夜遅くまで開館しているのだと思っていたが、(勤労福祉を主だって謳っていない) 総合体育館も夜遅くまで開館しているのではないか。</p>
事務局	<p>指定管理で運営していた時は、月曜日も開館し、かつ閉館時間も1時間遅くしていた。直営化にあたり財政負担などの見直しがあり、その結果開館時間を縮小している。ただ、今の施設状況を見て、ターゲットとする層やニーズを調べたうえで、改善が必要だと感じている。</p> <p>以前トレーニングジムがあった時は、「個人がふらっと来て、トレーニングをしてお風呂に入って帰る」という利用方法ができたが、今は団体登録をしないと施設利用ができない状態である。個人で短時間の利用ができないことも利用者が増えない原因のひとつだと考えている。一方でアスレチックルームは無料開放しているため、どのような仕様にすれば多くの方に利用していただけるかを検討できると思う。</p> <p>また、登録時の「団体」の定義(必要登録人数等)を、勤労福祉センターアクセス独自の定義とすることは可能ではあると思う。</p>
中川委員長	<p>財政的な観点で見ると、維持管理費はどうしてもかかるため、とにかく施設の利用を増やした方が良いのではないか。「勤労福祉センター」について、法律や条例上の制限はあるか。</p>
事務局	<p>「和光市勤労福祉センター条例」があり、条例内で施設の設置目的や用途を設定している。利用団体の定義は別途規則で定められている。</p>
中川委員長	<p>「勤労福祉」にこだわらず、施設の利用頻度を上げるためになにができるかを検討されるとよいのではないか。アンケートの中で「廃止も視野に入れる」という意見があるのは、やはり和光市の財政的にも無駄が生じているという認識が市民にあるということだと思う。だとすれば、公共施設という特性上維持管理費がかかってしまうのだから、できるだけ利用頻度を上げる方向でできることを実施すべきだと思う。</p>

事務局	<p>利用頻度をどのように上げるかという点は、重要なポイントであると認識した。</p>
中川委員長	<p>続いて、事業者アンケートの結果について事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>※資料6「事業者アンケートで見えた現状と課題」をもとに事業者アンケート回答集計結果について説明。</p> <p>事業者アンケートは、市内1,700社を対象に調査し、338件の回答を得た。回答率は20.2%である。</p> <p>事業者アンケートについて、回答者の属性は、様々な業種、所在地の事業者の方に回答いただいた。所在地については、白子、下新倉、新倉の方が他の地域と比較して多く回答いただいた。施設近隣の事業者のほうが、施設に関心を持ちやすいと考えられる。</p> <p>4ページに記載したレクリエーション施設、5ページに記載した従業員で構成されるサークルは、どちらも、「ない」という回答が圧倒的に多い。また、従業員で構成されたサークルの活動拠点が勤労福祉センターだと回答した事業者は1社のみであった。</p> <p>6ページに記載した休憩時間については、半数の方が1時間程度という回答で、休憩時間の過ごし方としては食事後に、昼寝やスマートフォンを利用する方が多い一方で、からだを動かして過ごすという回答も39件程度あった。ただし、事業所外でスポーツすると回答した方は4件と少数派であった。</p> <p>このことから事業所外において短時間で運動できる場所は限られていることが分かる他、近隣の事業所であっても、昼休みにアクシスのアスレチックルームの利用をしたいと考える事業者は少ないと推測される。</p> <p>勤労福祉センターについて知っているか、利用したことがあるかを伺った設問4について、施設を「知っている」という回答が「知らない」という回答の約1.6倍と多くあった。しかし、「利用したことがある」方は全体の23.8%に留まった。</p> <p>事業者としての施設を利用した際の利用目的は、会議、研修が上位となった。設備についての要望としては、従業員のリフレッシュのために浴室・シャワー・サウナの復活を求める声があった他、フリーWi-Fiの設置についての要望もあった。</p> <p>一方で、施設を利用したことがない事業者にその理由を尋ねたところ、10ページに記載したとおり「使う必要がない」という回答が最多数となった。使う必要がない、事業者から施設が遠い、という理由でアクシスを利用したことが無い事業者に、利用を促すことは困難である可能性が高いと思われる。</p> <p>さらに、アクシスを知らなかった、利用したことがない、と回答した方に、施設の概要を記した説明用紙を読んでいただき、今後利用したいと思うか尋ねたと</p>

	<p>ころ、利用したいと思わないとする回答が多数であり、利用したいと回答した事業者は16.9%に留まった。</p> <p>今後利用したいと思わない理由としては、これまで利用したことが無い理由と同じく、利用する必要が無い、事業者から施設が遠いという回答が多数であった。</p> <p>一方で、使い方が分からないために利用したいと思わないという回答もあり、これに対しては、施設についての広報を強化することで、今後利用する可能性がある方に取り込むことができる可能性がある。</p> <p>その他、アンケート自体について、自由記載欄が欲しいという回答があった。事業者アンケートは、多忙な事業者にも回答に協力いただけるよう、できるだけ回答しやすい設問に限定するよう考えたが、事業者についても自由記載欄の設置が必要だったと思うため、今後アンケート調査を実施する場合には改善したいと思う。</p>
中川委員長	<p>事前に委員の方から意見書の提出をいただいているので、その中で事業者アンケートについてコメントされている方から、ご発言いただきたい。</p> <p>本日欠席の阿部委員の意見を事務局に代読願う。</p>
事務局	<p>阿部委員の意見のうち、利用者アンケートに関する意見を代読する。</p> <p>「事業所のアンケートについては、338件も回答があった事に驚きました。勤労福祉の観点で考えればフリーWi-Fiは必須だと思う。</p> <p>アンケート回答にもあった仕事後の浴室利用はうなずけますが、当初トレーニングルームがあった時に、『仕事後にトレーニングを行い、そのあとに浴室を利用する』という流れだったと思うので、現状で浴室利用のみは、よほど魅力的なお風呂にしないとまらないのでは。ただ、勤労者ではなくアクシスやスポーツアイランドでスポーツされた方の利用は見込めると思う。アクシスの耐震等分かりませんが、浴室があれば災害時に利用できたらいいですね。</p> <p>それと、アクシスの認知度が低いので回答にあったように毎月広報に開催されるイベント・講座のお知らせを載せる、SNSで参加してみたいと思えるような講座の開催情報を流す。講座は幅広く年齢ごとに興味のあるもの、健康的な内容、子供も参加できるような簡単なスポーツや手芸、趣味的な事など月変わりて色々な講座をやってみて、参加人数の多いものを定期講座にするとか。今回開催された、バレーボール教室、コケ玉作りはとても良いと思いました。和光市のLINEとアクシスの掲示板で確認しました。コケ玉作りは申込しようと連絡した所、すでに満員となっていたために断念しました。」</p>
中川委員長	<p>事業所アンケートにはたくさん回答いただいているが、積極的に利用したいという事業者は多くないと思う。</p> <p>「施設の広報を強化することで、今後施設を利用する可能性がある方を増やす</p>

事務局	<p>ことができるのではないか」ということは、何をもって判断したか。</p> <p>利用したいと思わない理由について、「施設についてよく知らないから利用しない」と回答された方については、施設についての情報があれば、利用する可能性もあると判断した。</p>
中川委員長	<p>事業者で施設を利用する方々は、アリーナのみ利用だけではなく、研修などで会議室なども利用されているということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
中川委員長	<p>そうであれば、周知のやりがいがあるのではないか。</p>
事務局	<p>施設近隣の事業者が自社に会議室のような部屋を所有しているかどうかまでは分かりかねるが、社内会議や、遠方からきていただいた事業者との打合せの際に施設を利用いただけるのではないかと思う。また、和室の利用方法については検討余地があると考えている。</p> <p>事業者アンケートについては、郵送に加えて施設近隣事業者約10社の訪問ヒアリングを行った。アンケート調査のあとに、実際に会議室の利用を申請された事業者もあり、このアンケート自体が周知のひとつとして役立った部分もあると思う。</p> <p>また、アンケート郵送分の送付先については、国が行っている統計調査の母集団に含まれている事業所の中から一部業種を除いたすべての事業所に送付した。</p>
小野寺委員	<p>弊社も近隣事業者に該当するため、社内で施設について聞いて回った。施設を知らない人もいれば、知っていても利用しない人もいた。</p> <p>会議室について、やはり事業所内だけでは場所が限られてしまうため、事業所外で会議室を借りられるところがあると便利だと思う。ただ、利用頻度としては1年に1回利用するかしないかという程度である。</p> <p>また、私は事業者だけに施設利用のターゲットをしぼるのはどうかと感じている。先ほど市民アンケートについての議論の中で発言したが、事業者や勤労者のみにこだわらず、たくさんの市民に利用いただいたうえで勤労者にも利用いただくという優先順位でいいのではと事業者アンケートの結果を見て感じた。</p> <p>フリーWi-Fiは、事業所内に既に設置してあるところが多く、昼食時に利用するレストランにも必ず設置されている。フリーWi-Fiを求めてアクシスを利用することはあまりないのではないか。施設で会議をやりたいときにフリーWi-Fiがあればもちろん嬉しいが、利用頻度を考えるとWi-Fi設置費用がもったいないと思う。個人的には、フリーWi-Fiを設置したからといって、利用者数が増えるかどうか</p>

事務局	<p>かは疑問である。</p> <p>事業者や勤労者のみにターゲットを絞った場合、施設を利用される時間帯は平日夜間や休日が多くなると思う。そうすると、平日の日中は空いたままでいいのかとなるが、その点市民に施設を利用いただく方法を検討することが大事だと考える。</p>
中川委員長	<p>都内には貸会議室はあまりないと思うが、その点、近くに会議室があると嬉しいというわけでもないか。</p>
小野寺委員	<p>弊社の場合、10名くらいの団体のお客様がいらっしゃる機会があり、自社の会議室では手狭に感じることがある。</p> <p>ただ、お客様の目的は弊社の工場見学であるため、工場を見たあとに会議という流れになる。アクシスの会議室を使うのもいいと思うが、事業所とアクシスの間には幹線道路が走っており、トラックがたくさん走っている道路を、お客様を連れて行くのは怖い気持ちがある。</p> <p>反対に、会社や工場を見たいということではなく、会議だけをするということであれば、駅周辺でどこかを借りるとか、都内で会議することが考えられるかと思う。</p> <p>事業者にアクシスを便利に使ってもらうことを目指すより、地域の方のサークル活動などで数時間生け花や茶道をされるために会議室を活用してもらう方が現実的かと思う。</p>
中川委員長	<p>用途をあまり限定せず、「空いている」ということを事業者・勤労者だけではなく和光市民に広く周知する方が現実的だろうということか。</p>
小野寺委員	<p>そのとおり。大人数で集まりたくても場所がないという悩みは、事業者より一般市民のほうが持っていらっしゃるのではないかと思う。</p>
中川委員長	<p>議事（1）アンケート調査結果については以上とする。</p>
<p>（2）11月23日開催イベント「勤労感謝の日 IN 勤労福祉センター」について</p>	
中川委員長	<p>議事（2）11月23日開催イベント「勤労感謝の日 IN 勤労福祉センター」について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>※資料7「勤労感謝の日 IN 勤労福祉センター報告書」をもとにイベント事業について報告。</p>

	<p>今回のイベントは、勤労感謝の日に、12時から15時30分まで開催した。イベント内のプログラムとしては、茶道体験教室、からだのコリをほぐす体操、サッカー教室を実施し、イベント開催時間中、アスレチックルームではスポーツスタッキングというカップを積み上げる競技のタイム記録会を行った。</p> <p>また、12時から15時まで、2階ロビーで和光ブランド認定品のアーモンド菓子、新倉まんじゅうや地元野菜の販売を行った。</p> <p>それぞれのプログラムには、当日の飛び入り参加を含めて20名～30名の参加者が集まった。</p> <p>今回のイベント参加者は、延べ数で80名～90名程度であった。昨年度の勤労感謝イベントでは延べ105名参加されたため、若干参加人数が減少している。</p> <p>また、複数のプログラムに参加した場合にも1人としてカウントした実人数は、71名で、昨年度の実人数80名より若干減少した。</p> <p>飲食販売の売り上げは、新倉まんじゅうが完売、アーモンド菓子（パパピニョル）が1万円程度、地元産野菜が16,800円の売り上げであった。パパピニョル、地元産野菜は、和光市駅前広場開催イベント時の平均的な売り上げがどちらも4万円程度であるため、他のイベント開催時と比較すると半分以下の売り上げという結果であった。</p> <p>参加者からの声としては、「普段運動不足であるため、からだのコリをほぐす体操は、久しぶりによい運動になった」「茶道体験会がとてもいい雰囲気、アクセスで茶道ができることにびっくりした」「学童で、スポーツスタッキングで遊んだことがあるので、手順はよくわかっている。いい記録が出せてうれしい」などの感想をいただいた。</p>
中川委員長	<p>議事（2）についても、意見書にコメントをいただいている方からご意見いただきたい。本日も欠席の原田製作所の田中副委員長よりコメントをいただいていることですので、事務局に代読願う。</p>
事務局	<p>田中副委員長からのコメントを代読する。</p> <p>「施設の認知度アップ、集客面で一定の効果を出していくためにはこのようなイベントを継続していくことは必要と考えられます。一方で集客方法を考える必要があるかと思います。（知らない人が多い）」</p> <p>という意見をいただいた。</p>
中川委員長	<p>田中副委員長から、周知方法の工夫が必要というコメントをいただいているが、今回のイベントについてはどのような周知を実施したか、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>今回は、広報わこう、市のホームページ、SNSという基本的な広報媒体を活用した他、公民館、図書館、コミュニティセンターなどの公共施設に加え、アク</p>

<p>中川委員長</p> <p>事務局</p> <p>中川委員長</p> <p>事務局</p> <p>中川委員長</p>	<p>シス近隣の小学校、保育園にA1版のポスターを配布した。また、庁舎内のデジタル掲示板や、市職員向けの掲示板にも案内を掲示した。できるだけ、多くの方の目に留まるよう、様々な媒体を活用して周知に努めたが、アクセスを利用している団体の方でもイベント開催について「案内に気づかなかった」という方もいたため、次回以降、たとえばイベント開始の1か月前から施設内により目立つ装飾を施したポスターを設置する、施設の外壁にも掲示するなど、日頃からアクセスを利用する方や近隣を通る方の目に留まるような周知方法を検討したいと思う。</p> <p>イベントには、近隣の方々が来られたと捉えれば良いか。</p> <p>参加者のうち、近隣の方が突出して多いとまでは言えないが、近隣の方にも参加していただいた。</p> <p>和光市駅より北側の小学校にポスターを配布した。学校でポスターを見てイベントに参加してくれた子もいたと思われる。また、サッカー教室については普段からアリーナを利用されている団体の方に講師を依頼したため、協力的に周知をしていただいたことに加えて、講師のサッカースクールに通われている方々にも参加いただいた。</p> <p>事務局から他に補足はあるか。</p> <p>小野寺委員から「参加者の皆様が、どの情報を見てイベントを知って参加なさったか分かると、今後の周知の方法の参考になるかと思います。(参加者にアンケートを取るなど)」とご意見いただいた。今後イベント開催時のアンケートにそういった項目を加えて、参考にさせていただく。</p> <p>議事(2)11月23日開催イベント「勤労感謝の日 IN 勤労福祉センター」については以上として、次の議事に進む。</p>
<p>(3) 令和7年度勤労福祉センター事業計画(案)について</p>	
<p>中川委員長</p> <p>事務局</p>	<p>議事(3) 令和7年度事業計画(案)について、事務局から説明願う。</p> <p>※資料8「令和7年度事業計画(案)」をもとに計画案の説明。</p> <p>当市の令和7年度予算が3月議会で承認されたが、勤労福祉センターに関連する予算としては、資料に記載したとおりの金額となっている。この予算は、昨年度との比較で、消耗品費が11,000円程度増額、通信運搬費が19,000円削減、ごみ処分手数料が90,000円削減、勤労福祉センター予算全体で昨年度より95,000円減額されている。</p>

	<p>修繕予定箇所としては、令和6年度の法定点検等で指摘された防火扉、自動ドア駆動装置、屋内消火栓ホース交換の修繕を予定している。また、自家用発電機の消耗部品についても、経年劣化がみとめられるため点検を実施した事業者から部品交換を勧められている。修繕費の予算は100万円となっているため、予算の範囲において、優先順位を見極めつつ必要な箇所を修繕していく予定である。</p> <p>勤労福祉センター内の事業としては、年間5回の講座と11月勤労感謝の日のイベント、勤労感謝の日が属する1週間について利用料を免除する勤労感謝ウィークの開催を予定している。</p> <p>勤労感謝の日のイベントについては、令和5年度・令和6年度はマジックショーや各種教室など、普段のアクシス利用と異なる事業として開催していたが、令和7年度は、オープンキャンパスのように、アクシスの普段の姿を市民の方等に見ていただく、アクシスの利用団体合同の一日体験日としての開催方法を検討している。</p> <p>また、講座については、利用者の満足度向上や施設利用者の拡大を図るための講座や、勤労者のスキルアップに資する目的の講座の開催を考えている。これらは、アンケートで寄せられた意見をもとに事務局で考えた内容であるが、このほかに委員の方から、アクシスの事業についてアイデアをいただきたい。</p> <p>そして、運営検討委員会については、令和7年度は3回の開催を予定している。資料に表記した時期や内容は目安として参照していただきたい。</p> <p>最後に、アンケートにおいて、施設に関する周知不足を指摘するご意見が寄せられたことをきっかけに、令和7年度は、施設についての周知を強化したい。</p> <p>事業者向け周知として、「商工会News」という商工会が発行する商工会加入事業者向けの広報紙の活用を検討しているほか、広報わこう11月号には、アクシスの施設紹介、利用団体紹介の記事の掲載希望を秘書広報課に提出しようと考えている。そのほか、市内の公民館では施設の利用団体の紹介を市ホームページ上で実施しているため、アクシスについても、令和7年度内に市のホームページ上で利用団体を掲載し、アクシス利用団体のサークル活動の活性化につなげたい。</p>
中川委員長	<p>広報費は予算計上しなくてもいいということですか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。商工会Newsや市の広報紙、ホームページへの掲載は経費をかけずに対応できる。</p> <p>講座内容について、「勤労者のスキルアップに資する目的の講座」を案として記載しているが、事業者の立場から、社員育成や社員のために役立つのではという視点で、何か企画のアイデアをいただきたい。</p>
小野寺委員	<p>若年層が意識している分野としては、お金のことや将来の不安などが挙げられると思うため、ファイナンス系の講座は需要があると思う。</p>

	<p>ビジネスマンとしての意識づけや接遇など、社内研修として組み込まれているかもしれないが若年層は高い関心を持っていると思う。そういった目的の講座があるということを事業者が知るだけでも違うと思うし、参加費用が安ければ従業員を参加させてみようと、事業者が考えることもあり得るのではないか。</p>
中川委員長	<p>和光市及び産業支援課として、勤労者にどういうスキルアップをしてもらいたいという方針はあるか。</p>
事務局	<p>市から勤労者に対し「このスキルを上げてほしい」という具体的な方針は現状定まっておらず、市民や市内事業者のニーズにマッチする講座を実施したい。</p>
中川委員長	<p>アクシスで行う講座は産業支援課主催の講座ということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
中川委員長	<p>商工会などにアクシスで事業を実施していただくのはいかがか。</p>
事務局	<p>商工会事務局に研修室があり、商工会主催の講座は原則そこで実施されている。市と商工会が共催でセミナーを実施する際に、アクシスを活用できないか、検討する。</p>
中川委員長	<p>この事業計画（案）について承認をいただけるか。</p> <p>（異議なし）</p>
中川委員長	<p>それでは、賛成多数と認め、議事（3）令和7年度事業計画（案）については事務局の提案のとおり承認とする。</p>
3 その他	
事務局	<p>議事録の確認について事務連絡</p>